

☆シンボリズムから紐解く☆

ルネサンス美術とタロットの哲学



第6回 9. 隠者 10. 運命の輪

©2020 加藤まり子 All Rights Reserved



当講座の趣旨

占いとして使用されるタロットカード。
起源については色々な説があります。

フィレンツェに3年留学し、現地でルネサンス美術を鑑賞する中で、多くのルネサンス美術がタロットカードのシンボルと共通することです。例えば右の「パラス＝アテナとケンタウロス」は、女性が獣を御している姿がタロットカードの「力」に共通する点があります。

15世紀フィレンツェでは新プラトン主義というギリシャ哲学が研究されました。美術作品はこの哲学に基づいて製作されました。ルネサンスとタロットの共通点を見つけていく中で、タロットカード（マルセイユ版）は15世紀フィレンツェで新プラトン主義を反映して製作されたのではないか、という研究に行き当たりました（クリストフ・ボンセ氏）。

この講座では、タロットが15世紀フィレンツェの新プラトン主義の影響を受けて製作されたという仮説に基づき、タロットカードを1枚ずつルネサンス美術と比較して共通点を見ていきたいと思います。共通するシンボルを通して当時のフィレンツェで語られていた新プラトン主義やヘルメス学、錬金術といった内容について理解を深めていきます。



タロットカード22枚予定

日程	カード	内容		カード	内容
6/21		7つの美德		—	—
7/19	愚者	トビアスの旅、同行二人	7/19	—	—
8/23	1 奇術師	四大元素と錬金術	8/23	2 女教皇	奇跡のヴェールと聖母子
9/20	3 女帝	豊穡とヴィーナス	9/20	4 皇帝	惑星と人間の成長
10/18	5 教皇	秘跡と儀式	10/18	6 恋人たち	三美神、魂の成長
11/22	7 戦車	翼を持った魂	11/22	8 正義	金～鉄の時代、人間の律法と神の戒律
12/20	9 隠者	モーセと青銅の蛇、修道僧	12/20	10 運命の輪	運命と理性、スフィンクス
2021/1/16	11 カ	ユニコーンと乙女	2021/1/30	12 吊るし	磔刑、惑星と星座
2/13	13 名前のないアルカナ	メメント・モリ、ウロボロス	2/27	14 節制	天使の種類、愛
3/13	15 悪魔	ルシフェル、荒野の誘惑、デミウルゴス	3/27	16 神の家	キリスト教会建築の構造、鐘楼の意味
4/10	17 星	聖なる愛と俗なる愛、時間の概念	4/24	18 月	月の役割、狛犬と獅子
5/8	19 太陽	プラトン「饗宴」、ヘルマフロディーテ	5/29	20 審判	最後の審判、復活
6/12	21 世界	マンドルラ、クイントエッセンス、福音書		—	—

3

略歴

2000年京都大学法学部卒業。2011年京都造形芸術大学芸術学コース卒業。

IT系企業に10年勤務の後、外資系製薬会社でITマネジメントを経験。

その間に学芸員資格を取得。2014年よりフィレンツェ在住。

イタリア政府公認観光ガイドとして、国会議員の勉強会での講義や上場企業役員へ美術館を案内。

2017年帰国後、都内で美術史講座等を行っている。

保有資格：

1. イタリア政府公認フィレンツェ観光ガイド
2. 文部省認定学芸員
3. 通訳案内士(英語)
4. タロット・アドバイザー
5. ネイタルナンバーアドバイザー
6. ハーブ・アドバイザー
7. オーラソーマレベル2
8. 日本ヒプノセラピスト協会認定ヒプノセラピスト
9. THA認定チャネラー
10. ヨガ全米アライアンスコース200時間修了

過去開催例：

1. 新プラトン主義とルネサンス
2. ボッティチェリと盛期ルネサンス
3. 陰謀のメディチ家～ルネサンスを支えたパトロン
4. ヌードとネイキッド：描いていい裸とそうでない裸
5. キリスト教絵画のヒミツ
6. 聖母子像のヒミツ
7. 教会建築と聖母マリア



Twitter/Facebook/Instagram:
@mariko77kato

4

ルネサンス美術とタロットの哲学 第6回

9. 隠者

1. 修道士とは？修道士の始まり
2. 修道院：研究の中心
3. モーセとヘビ：カナンへの旅
4. 人を導く：明かりを灯す

10. 運命の輪

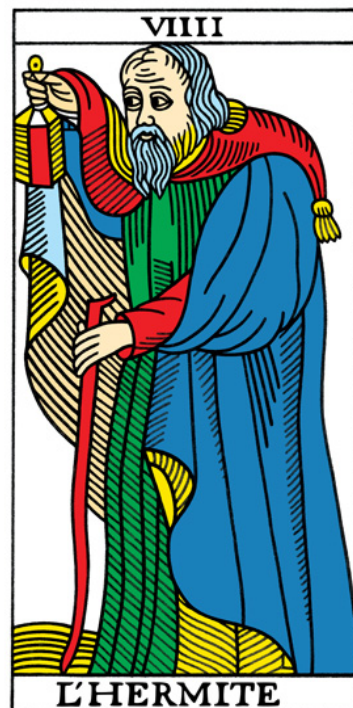
1. 運命は女性？運命の女神たち
2. 運命：可変的なもの
3. 天体と潮の満ち引き
4. スフィンクス：人生の舵は自分で握る



隠遁生活
1420 フラ・アンジェリコ
ウフィツィ美術館

9. 隠者

1. 修道士とは？初期の修行者たち
2. 修道院：研究の中心
3. モーセとヘビ：カナンへの旅
4. 人を導く：明かりを灯す



修道士とは？初期の修行者たち

7

隠者：修道士の始まり

カトリックでは修道院で祈りに人生を捧げる修道士と呼ばれる人たちがいます。現在では修道院で共同生活をしていますが、元々は一人一人が砂漠などで祈りを捧げる生活をしていました。彼らは世俗から自らを切り離し、世俗的な欲望から解放されることを目指していました。隠者のカードはこのような修行者をモデルとしています。

キリスト教画では多くの隠者が聖人として登場します。聖人たちは質素な暮らしをし、時には苦行を自らに課して神に祈りを捧げました。それによって神秘的体験を経験したり、大きな功績を残しています。宗教画でよく描かれる隠者たちを通して、どのような生活を送ったか、そして後世に残る業績を見ていきましょう。

イーゼンハイム祭壇画より
「聖アントニウスの聖パウロ訪問」
1512-16 グリュネヴァルト
ウンターリンデン美術館



聖ヒエロニムス: 現在の聖書の基礎を築く



9

聖フランシスの生涯より
「小鳥に説教をする聖フランシス」
1297-99 ジョットー
アッシジ聖フランチェスコ大聖堂(上堂)

聖フランシス: 清貧の象徴

聖痕を受ける聖フランシス
1295-1300 ジョットー
ルーヴル美術館

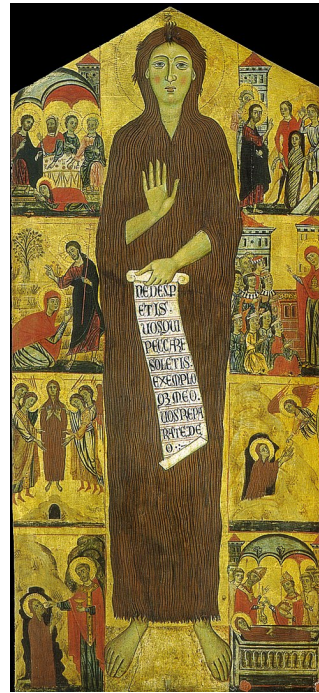


10

エジプトのマリアとマグダラのマリア

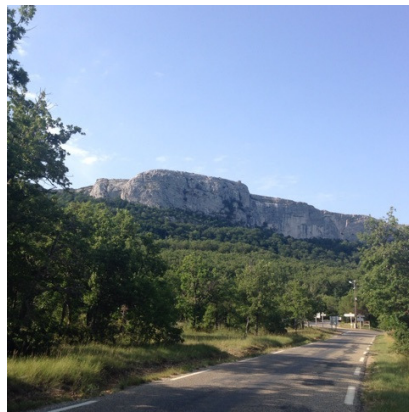


エジプトのマリアのアイコン
17世紀
ペリーゴロド(ロシア)



悔悛するマグダラのマリアと8つのエピソード
1280-85 マグダレーナの親方
アカデミア美術館(フィレンツェ)

11



マグダラのマリアと 瞑想の洞窟



左から時計回りに:

- ・ マグダラのマリア(ドナテッロ)
- ・ サント・ボーム山塊(マグダラのマリアの)
- ・ サント・ボームの洞窟
- ・ 昇天するマグダラのマリア

12

修道院：研究の中心

13

修道院の形成

元々個別に隠遁生活を送っていた修道士たちでしたが、助け合って生活するようになりました。これが修道院の始まりです。6世紀にベネディクト派が最初の修道院をイタリアで開きました。修道士たちの生活の中心は「祈り」です。「清貧」「純潔」「服従」をモットーとして生活を営みました。

中世に入ると次々に修道院が建てられました。特にフランスのクリュニーやシトー派などは大きな権力を持つようになります。修道士というと困った人たちを助けるイメージがありますが、この頃の修道士たちは外界との接触を断つことが目的です。従って自分たちで畑を耕し自給自足の生活を行っていました。また、この時代に唯一文字が読める人たちです。図書館が形成され、キリスト教の研究が進められました。



聖ベルナルドゥスの前に顫れる聖母マリア
1482-86 フィリピーノ・リッピ
バディア・フィオレンティーナ教会

14

修道院に至るまで

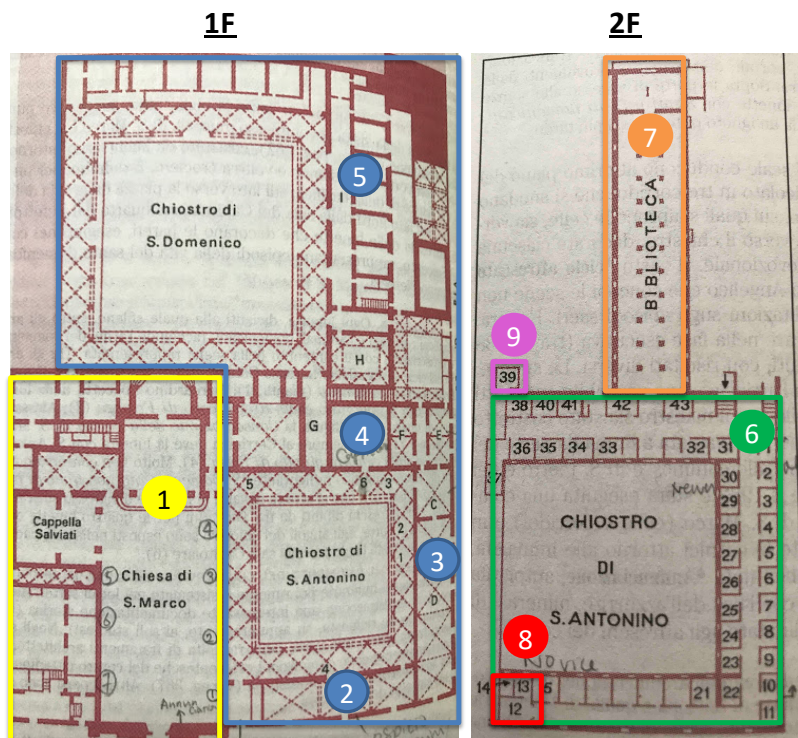


右: ヴァロンブローザ派の修道院

左: 修道院が形成されるまで隠者たちが住んでいた洞窟

トスカーナのヴァロンブローザでは、山で隠者たちが瞑想の生活を送っていました。聖グアルベルトは権威中心主義の修道院生活に反対し、隠者の一人として生活をはじめましたが、のちにヴァロンブローザ派を創設し、修道院で共同生活を営むようになりました。

修道院の構成



(参考)

サン・マルコ元修道院美術館
(フィレンツェ)

1F: 外部との入り口

- 1) 教会
- 2) 巡礼者宿泊施設
- 3) 修道士 食堂
- 4) 参事室(会議室)
- 5) 信者宿泊施設

2F: 修道士たちの居住スペース

- 6) 修道士たちの住居
- 7) 図書館
- 8) 修道院長室
- 9) 特別室
(出資者の宿泊場所)

修道院は教会と隣接しています。外部の人間は修道院に入ることにはできませんが、1階部分のみに限られていました。2階の独房は修道士のみが入れる空間です。修道士たちは外部から遮断された空間で祈りを捧げていました。

修道院:2つの側面

自給自足



ベルンハルト祭壇画より
「働くシスター派たち」
1500 ヨルグ・ブレイ(父)

トマス・アキナスの勝利
1471 ペノツォ・ゴツォリ
ルーヴル美術館

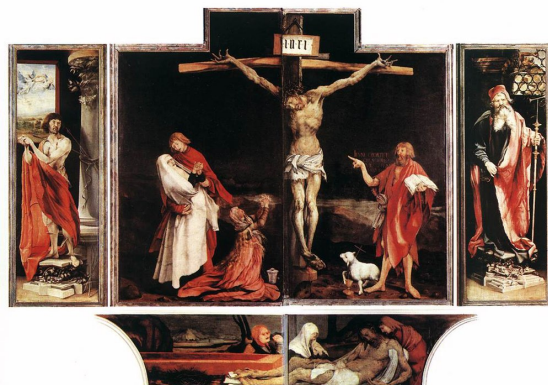
研究



病院、薬局としての修道院

上段:
サンタ・マリア・ノヴェッラ教会と薬局

下段:
左: 聖アントニウスと豚
右: イーゼンハイム祭壇画(右が聖アントニウス、左が聖セバスティアヌス)



説教をするヴェローナの聖ペテロ
1338 ベルナルド・ダッディ
パリ装飾芸術美術館

信者への2つのアプローチ

聖フランシスの生涯より
「騎士にマントを渡す聖フランシス」
1297-99 ジョットー
アッシジ聖フランチェスコ大聖堂(上堂)

ドミニコ会



ドミニコ会はキリスト教の研究と強い説法を中心とした布教活動を行いました。人々を矯正し正しい方向に導くことが信条です。

フランシスコ会



フランシスコ会は清貧をモットーとします。知識すらも贅沢品とみなし、キリストが生きたように生きようしました。貧しい人たちへの施しも特徴です。

19

モーセとヘビ：カナンへの旅

20

モーセと蛇

旧約聖書の登場するモーセはエジプトで奴隷状態であったイスラエル人たちを率いてエジプトからカナンを目指した英雄です。十戒で有名なモーセですが、神から特別な力を授けられ、イスラエル人たちの解放を導きます。

モーセには杖を蛇に変えるエピソードが2つほどあります。1つ目はモーセがエジプト王にイスラエル人を連れてエジプトを出る際の出来事です。兄アロンと共にエジプト王に会いに行ったモーセですが、エジプト王はイスラエル人の移動を許可しません。モーセとアロンは神から授かった力の一つ、杖を蛇に変える術を使い、杖は王の魔術師たちの蛇を食べてしまいます。

その後モーセはイスラエル人たちとエジプトを脱出しますが、旅の途中でこの杖は様々な奇跡で人々を救います。



モーセ
1513-15 ミケランジェロ
サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ教会

21

ヘビになった杖

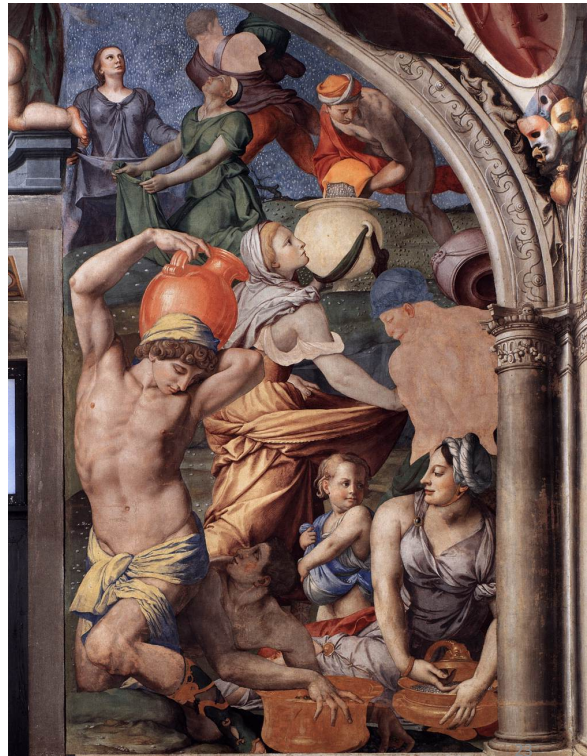


アaronの杖
1896-1902 ティソー
ニューヨーク ユダヤ美術館

22

泉、マナの恵み
1540-45 ブロンズイーノ
ヴェッキオ宮殿 エレオノーラの礼拝堂

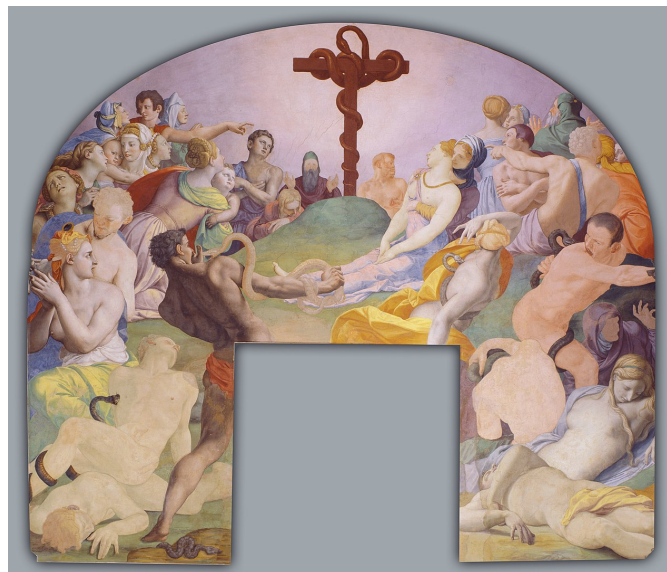
杖の功績



杖の変化: 青銅の蛇

蛇というのは古来より呪術と深い関わりがあります。無事エジプトを脱出し、イスラエル人たちと一緒にカナンへの旅を続けたモーセでしたが、旅の苦しさからイスラエル人たちは神に不満を漏らすようになりました。それを聞いた神は怒って炎の蛇をイスラエル人たちに送り、それに噛まれた人たちが死んでいきました。人々はモーセに頼んで神に許しを請い、モーセは神の言葉に従って青銅で蛇を作ります。蛇に噛まれた人たちは、これを見て生き延びることができました。

また、杖で岩を叩いたところ水が湧き出て人々の飲み水になったり、紅海を開いたのもこの杖の力でした。このように杖は人々を救い導く道具としての役割を果たします。



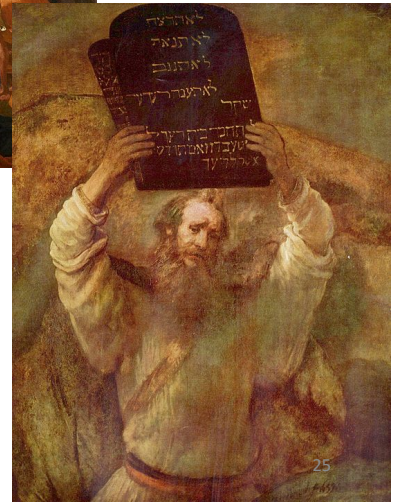
青銅の蛇
1540-45 ブロンズイーノ
ヴェッキオ宮殿 エレオノーラの礼拝堂

モーセと十戒



金の子牛の礼拝
1633-34 プッサン
ロンドン・ナショナル・ギャラリー

数々の困難を乗り越えながらイスラエルを目指すモーセは40日間シナイ山に籠り、神から十戒を授かります。しかし、その間に待ちくたびれた人々は、モーセの兄アロンに相談し、新しい崇拝対象である黄金の子牛を作ります。これに激怒したモーセはせっかく神からもらった十戒の石版を叩き割り、金の子牛も燃やしてしまいます。その後モーセは再び十戒を受け取り、その中にある言葉通り人々は偶像崇拝をやめたのでした。



十戒をもつモーセ
1659 レンブラント
ベルリン絵画館

人を導く: 明かりを灯す

闇の中で見えるもの

隠者は一般的に洞窟などで一人で生活をしています。そのため闇を照らす光が重要になってきます。多くの隠者を描いた絵にも光が登場します。また、タロットカードの隠者も手に灯りを持っています。

灯りが見えるのは「闇」があるからです。隠者や修道士たちの生活の中心は瞑想と祈りです。一人で祈りを捧げる静かな生活の中で、初めて「光」を見出すことができます。キリスト教で「光」は神を表します。また、英語で「悟り」は“Enlightenment” といって「光を照らす」という意味合いがあります。

古今東西、僧侶たちは瞑想という孤独な作業を通して光を見出そうとしました。しかし、闇は同時に自分の内面を浮かび上がらせることもあります。



悔悛するマグダラのマリア
1640 ジョルジュ・ラトゥール
ルーヴル美術館

27

幻想：闇の中で見えるもの



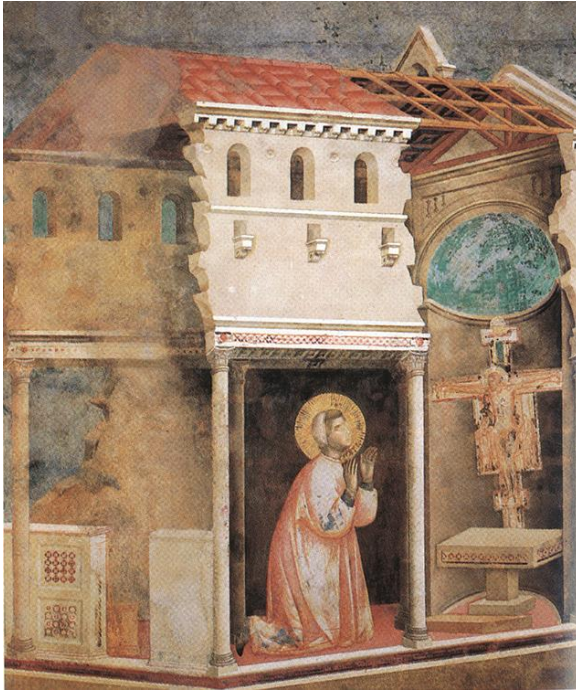
イーゼンハイム祭壇画より
「聖アントニウスの誘惑」
1512-16 グリューネヴァルト
ウンターリンデン美術館



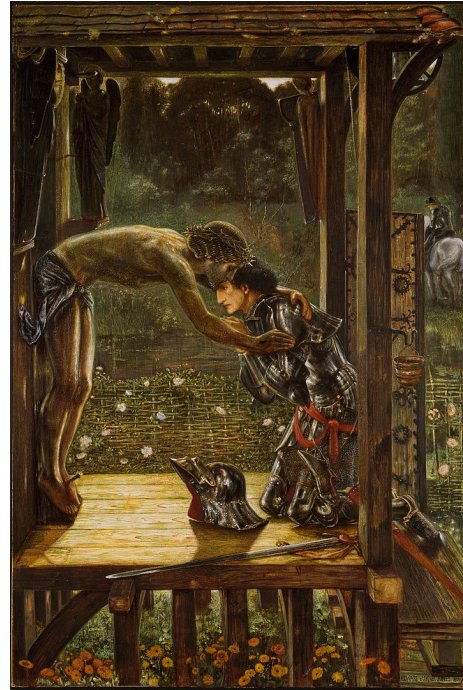
「気まぐれ」より
No.43 理性の眠りは怪物を生む
1797 フランシスコ・デ・ゴヤ
ブラド美術館

28

救い: 闇に光をもたらす



聖フランシスの生涯より
「サン・ダミアノでの祈り」
1297-99 ジョットー
アッジ聖フランチェスコ大聖堂(上堂)



慈悲深き騎士
1863 バーン=ジョーンズ
バーミンガム美術館

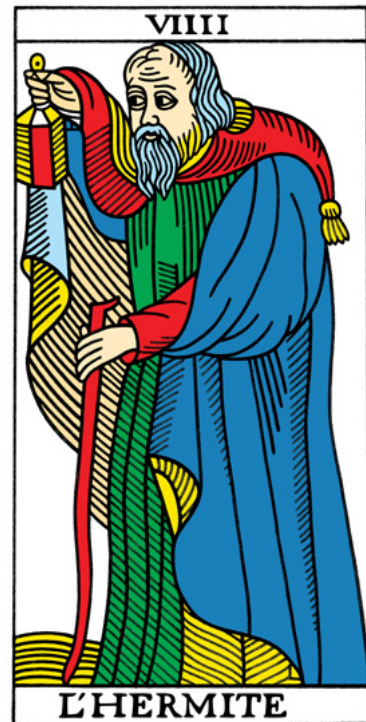
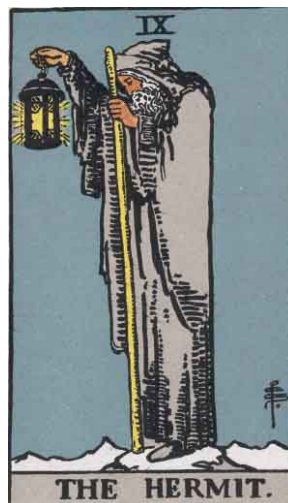
29

隠者: 人々に明かりを灯す

マルセイユ版タロットの「隠者」のカードは修道士の服を着た老人の姿で描かれています。手にはランプと杖を持っています。20世紀に作られたウェイト版タロットも老人が手にランプと杖を持っています。

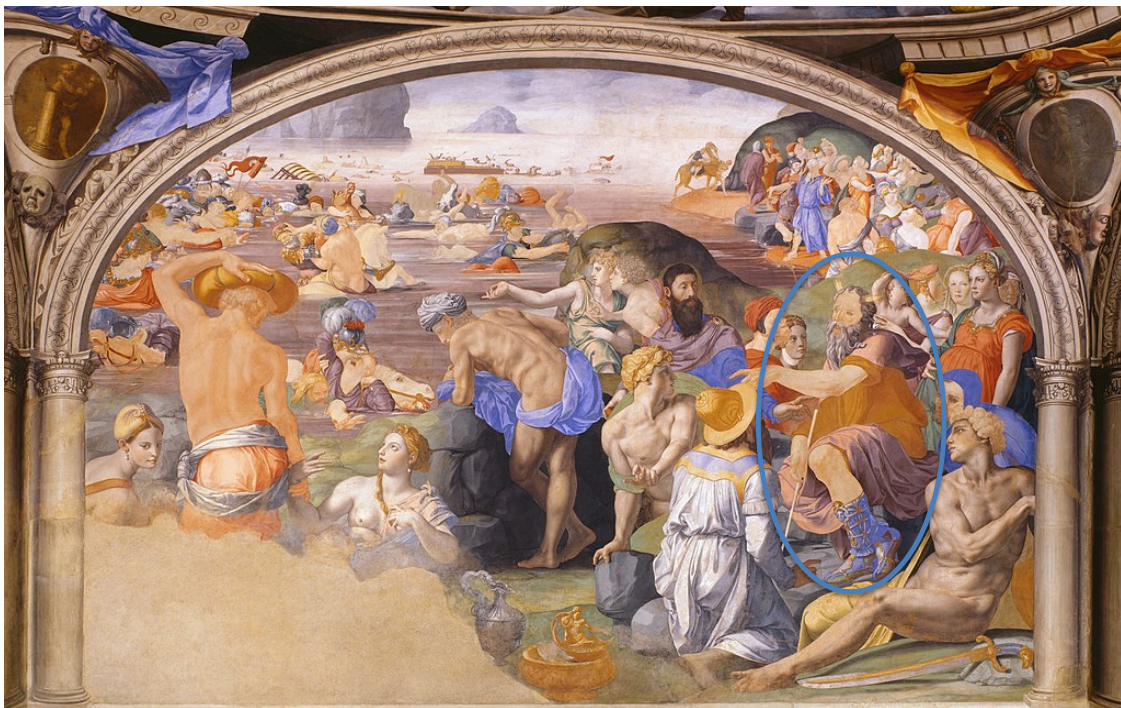
しかし2つには大きな差があります。ウェイト版の隠者は自分の内面を見つめているのに対し、マルセイユ版は灯りを人々のために照らしています。また、杖も人を導くために使われるものです。

モーセは伝統的に頭から2つの光線を出して描かれます。光は人々の道を照らすこと、そして多くの奇跡を起こしたように杖は人々を導くものです。隠者のカードも同じように人々に光を与え、人を導くことができることを表します。



30

人を導く杖と光



紅海を渡るモーセ
1540-45 フロンズイーノ
ヴェッキオ宮殿 エレオノーラの礼拝堂

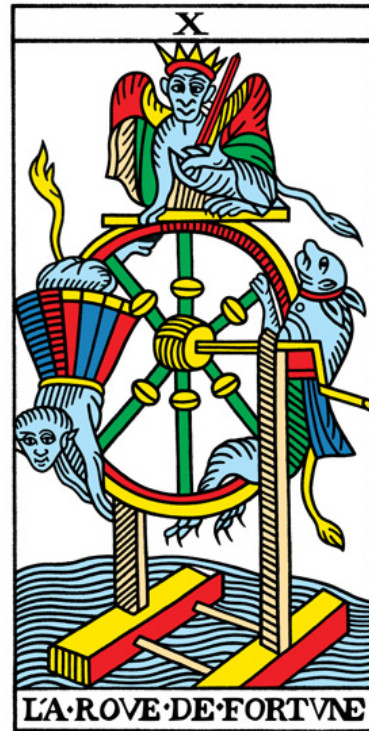
31

Break

32

10. 運命の輪

1. 運命は女性？運命の女神たち
2. 運命と時間：可変的なもの
3. リズム：天体と潮の満ち引き
4. スフィンクス：人生の舵は自分で握る



運命は女性？運命の女神たち

運命を握る女神たち

金の糸
1885 ストラドウィック
テート・ブリテン



モイライはギリシャ神話で人間の運命を操る女神と考えられていました。三姉妹で一人が糸を紡ぎ、一人が糸の長さを測り、最後の一人がそれに合わせて糸を切ります。この糸が人の寿命を表すと考えられていました。古代の考えでは人間の運命は神が握っているものでした。

35

運命の女神: 色々な側面

恵みをもたらす



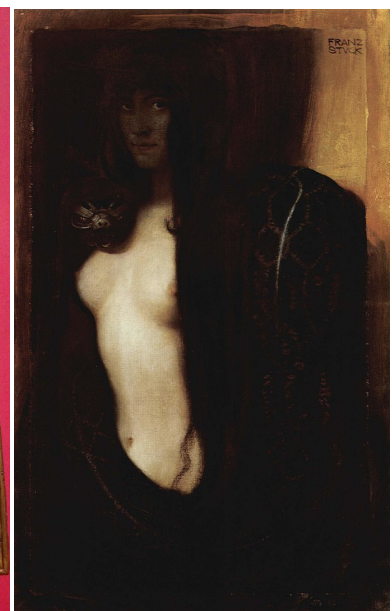
豊穣
1630頃 ルーベンス
国立西洋美術館

先行きが不透明



運命の寓意
1580-99 リゴッツイ
ウフィッツ美術館

逃れられないもの



罪
1893 シュトウツク
ノイエ・ビナコテーク

あなたにとって運命はどんな顔を持っていますか？

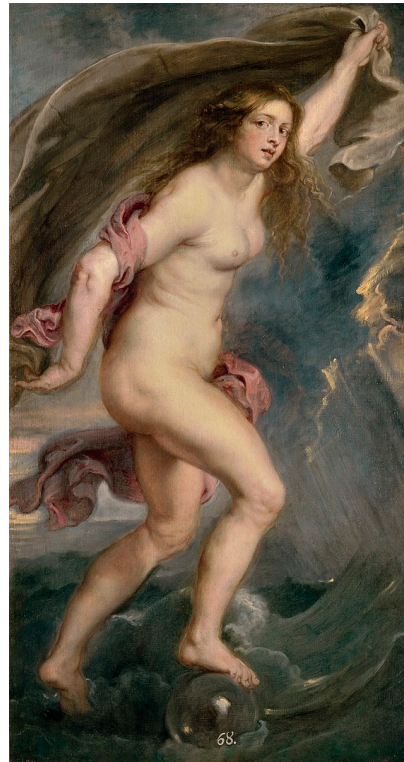
36

運命の女神の特性

ヨーロッパでは「寓意」を美術作品として表現します。運命の寓意像は通常女性で表されることがほとんどです。女性と同じように気まぐれで移ろいやすく、幸運も不運もどちらももたらすという考えに基づいています。

美術作品でも不安定さを表す要素が描かれます。この作品では女性が不安定なガラス玉の上に乗っています。周りは嵐のような風景で波が大きくうねっています。これは古来からヨーロッパで考えられていた幸運の姿で、美しく魅力的に見えながら逃げ足が速く、幸運に見えて実は嵐である、という考え方です。

中世までは人間の運命は神の手に委ねられていました。一人一人の幸不幸は大きな運命という荒波の中で揺られる小さな小舟のように捕らえられていました。



フォルトゥーナ(運命の女神)
1638 ルーベンス
ブラド美術館

37

運命の輪を回す女神

運命の女神は運命の輪を回す姿でも描かれます。このバーン=ジョーンズの作品も伝統に従って、女神が運命の輪を回し、人間たちは回されているだけという姿で描かれています。

車輪の一番上にいるのは奴隷で、その下にいる王を踏みつけています。すなわち今は王でもいつかは奴隷に取って代わられることを表します。また、王の足元には月桂冠を頂いた詩人が描かれています。栄誉された詩人でもいつかはその地位を追われますが、車輪が周りまた栄誉をつかむことができる可能性を示唆しています。

日本でも諸行無常という考えがありますが、ものは常に変化し続けます。良いことも悪いことも同じ状態は続きません。



運命の輪
1875-83 バーン=ジョーンズ
オルセー美術館

38

運命と時間：可変的なもの

39

運命と時間：変化するもの

運命の輪は中世から描かれていました。車輪の上には王が描かれ「今支配する」と書かれています。そして右側には下向きに描かれた王に「かつて支配した」の文字があり、一番下には「支配するものがない」、そして左には王冠のない若者が「支配するであろう」という言葉とともに描かれています。そして中心で車輪を回しているのが運命の女神です。

この車輪の形は何か似ていないでしょうか？時計やホロスコープなど、私たちの身の回りには同じ形のものが多く見られます。これらに共通するのは「回る」ということです。「動く」という要素は一見変わりゆくものですが、同時に必ず一周回って同じ場所に返ってくる習性を持ちます。時間も季節変わっていきますが、同じスパンで繰り返しています。



カルミナ・ブラーナ
1230 バイエレン州図書館

40

私たちはみんな回っている



サン・ミニアート・アル・モンテ教会
13世紀



イタリア式時計
1443 バオロ・ウツチェツロ
サンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂

41

1日の流れ



1日の流れもまた、移ろいながら同じ状態を保つことはありません。電気が発明されるまで、1日の時間によって行動が異なりました。1日の中では変化がありますが、これも巡って次の日には同じことが繰り返されます。一定のリズムで巡っていくのが時間の特徴です。

また、季節についても同じです。季節は変わっていきますが、1年経つと同じ季節が巡ってきます。一見変化しているように見えますが、1年という大きなスパンで見ると同じ場所に戻ってきます。

時間
1882 バーン=ジョーンズ
グレーヴス・アート・ギャラリー

42

一年の流れ



ホーライたち
1894 エドワード・ポインター
ブリストル市立美術館

43

リズム：天体と潮の満ち引き

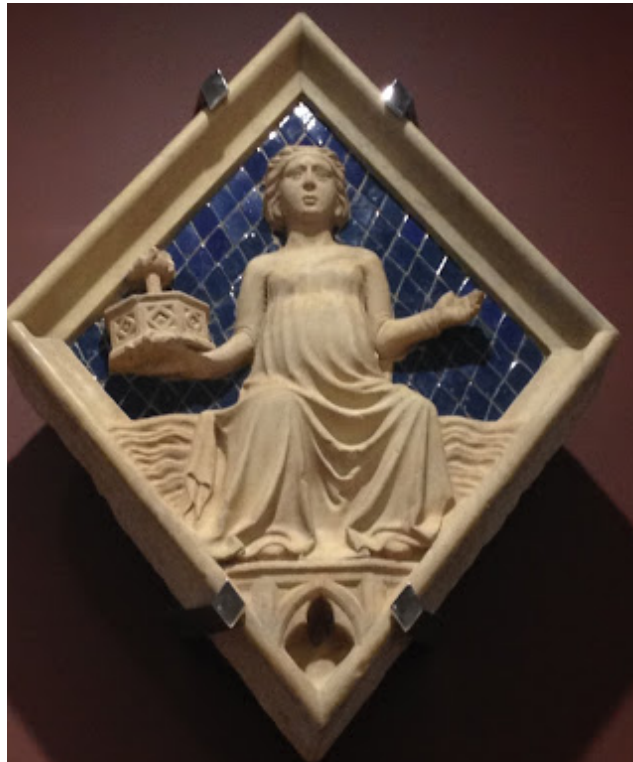
44

月と周期

月は日々形を変えることから古来より暦の役割を果たしてきました。日本では明治まで月の周期を使った太陽太陰暦が使用されていました。月は形を変えるだけでなく、実際に地球上に大きな影響を及ぼしています。

亀の産卵は有名ですが、それ以外にも精神状態や血流にも影響を及ぼしています。その中でも大きな影響を及ぼしているのが潮の満ち引きです。毎日の干潮満潮にも月の引力が関わってきますが、大潮は新月満月の時に起こります。こういった影響から漁業はもちろん、昔は農業でも月の満ち欠けで種まきや収穫を行っていました。

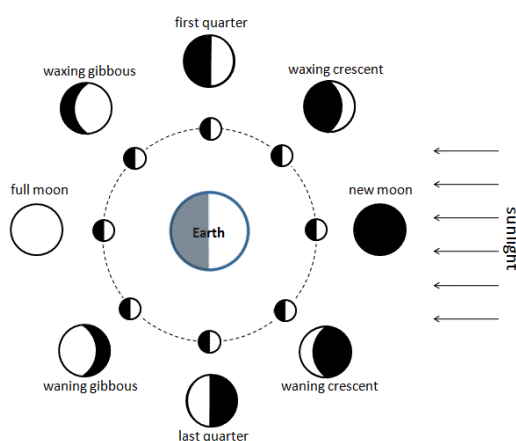
フィレンツェ大聖堂に付属するジョットーの鐘楼に飾られた「月」の寓意像は、潮の干満とともに描かれています。



ジョットーの鐘楼より「月」
アンドレア・ピサーノと工房
1343-60 ドゥオモ附属博物館

45

潮の満ち引きを操る月



By Andonee - Own work, CC BY-SA 4.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=38635547>



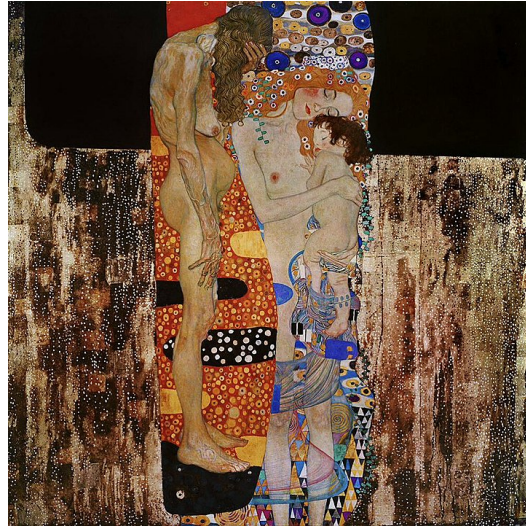
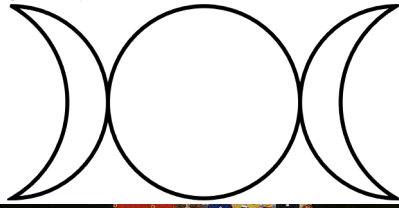
フランスのモン・サン・ミシェルは潮の満ち引きによって陸とつながる場所です。潮の満ち引きは1日の中でも変わりますが、月の満ち欠けで変わってきます。現在は橋が架けられていますが、何百年もの間巡礼者たちは干潮の時を見計らって参拝していました。モン・サン・ミシェルが聖地と言われる理由の一つは、自然現象によって孤島となり参拝に制限が出てくるためです。

46

月の満ち欠け



ヘカテ
ローマ時代
キアラモンティ美術館



女の人生
1905 クリムト
ローマ近代美術館

47

変わるものと変わらないもの



プシュケとアモル
1798 フランソワ・ジェラル
ルーヴル美術館



メメント・モリ
紀元前1世紀
ナポリ考古学博物館

48

スフィンクス: 人生の舵は自分で握る

49

運命の輪を回すのは誰？

中世の運命の輪の絵を見ると、一番上に王様が座っており、それ以外の人たちが車輪の周りを回っています。マルセイユ版タロットでは回っているのが動物で描かれていますが、おおよそ形は似ています。マルセイユ版で一番上に座っているのは王冠をかぶったスフィンクスです。中世の作品に見られる王様と似た姿で描かれています。しかし、王様が車輪に座っているのに対し、スフィンクスは車輪の上に座っています。これはスフィンクスが運命の輪の回転から解放されていることを表します。

また、中世の作品では女神が中心に座って車輪を回しています。一方のマルセイユ版タロットでは、車輪の取っ手は外に伸びており、回している人はいません。これはどういう意味を表しているのでしょうか。



運命の輪
1455-62 トロイ・ブックより
大英図書館

50

ヴィスコンティ版とマルセイユ版の違い

ヴィスコンティ版



マルセイユ版



51

スフィンクス: 運命を司る

マルセイユ版「運命の輪」の一番上に描かれているスフィンクスは、ギリシャ神話に登場する怪物です。上半身は人間の女性で下半身がライオン、そして鷲の翼がついていると考えられていました。非常に頭が良く、旅人に謎かけをして答えられなかった人間たちは食べられてしまいました。そのため恐れられていましたが、ある日若者オイディプスはその謎を解き、スフィンクスは自らの命を絶ったと言われています。

これは運命の二面性を表しています。1つは謎が解けないものを殺して食べてしまう、という人間の運命を司る従来の運命の女神の姿です。一方のオイディプスの謎解きは、人間が自らの力によって運命を切り開いていくことができることを表しています。ここに人間の「自我」の芽生えを見ることができます。



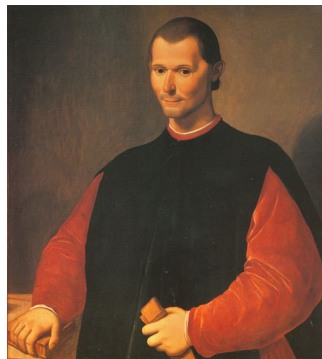
スフィンクスの謎を解くオイディプス
1808-27 アングル
ルーヴル美術館

52

**ルネサンス：
理性の力で自分の運命を切り開く**

オイディプスと同じように、自分の人生を切り開くことができると考えたのがルネサンスでした。中世のように神に定められた運命の中で生きるのではなく、神から与えられた「考える力」を使って人間は物事を創造することができると考えました。これをきっかけに科学が発達し、新大陸の発見や地動説の提言など、近代社会につながる科学が生まれます。

マキャベリは「君主論」の中で運命を女性に例えています。中世と異なり、運命の女神に翻弄されるだけでなく、その中で人間が対策を練ることができるとを説いています。



ニコロ・マキャベリ (1469-1527)



旧聖具室
1419-28 ブルネレスキ
サン・ロレンツォ教会

53



**運命に流されるか？
運命を切り開くか？**

ハムレット
1899 ミュシヤ

オーフィリア
1851 ジョン・エヴァレット・ミレー
テート・ギャラリー

54

運命の輪をどう使うか？



運命の輪の形は船の舵に例えられます。舵は船の方向を決めます。船長が明確な意思を持って正しい方向に舵を切ることで、船は難破することなく航海することができます。天候や波に左右されることもありますが、しっかり舵を握ることで船を操縦することができます。

一方、同じ形のものにルーレットがあります。英語では“Wheel of Fortune”と呼び、運命の輪と同じ言葉です。カジノで見かけるルーレットは文字通り富と幸運 (Fortune) をもたらしてくれます。



しかし、これは「運」という不可避なものに左右される見かけの幸運です。重要なのは、船の舵のように、自分という船の操縦は自分自身が握っていくことです。

人間は船のように天候や時代など外部からの影響を必ず受けます。しかし、その中でも運命に流されるだけではなく、自分で選択することが可能です。

運命を味方につける



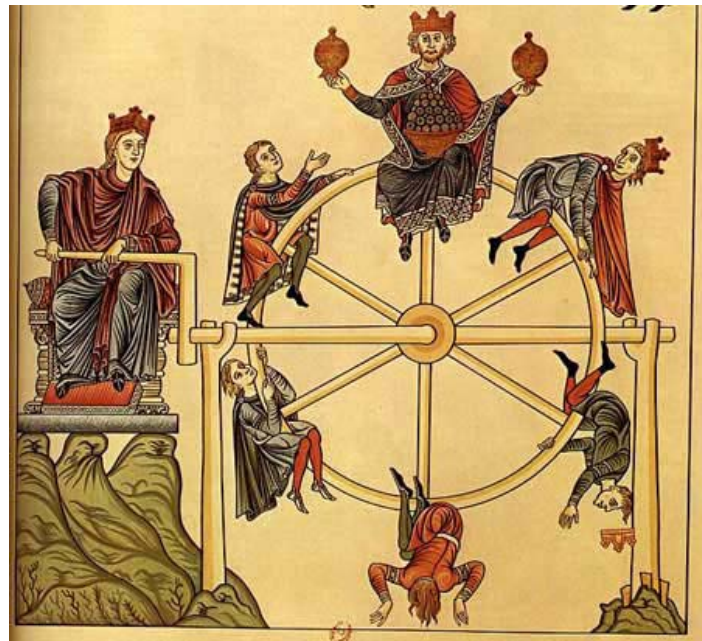
運命の寓意
1515 ラルチャーニ
ウフィツィ美術館



Di I; Sailko, CC BY 2.5,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=6716145>

ルツェライ家 紋章
サンタ・マリア・ノヴェッラ教会

人生の舵は自分が握る！



「快楽の園」抜粋
13世紀 ランズベルク
フランス国立図書館

57

会員制度のご紹介

西洋美術史の勉強をより深められる会員サイトを設けています。
まずは8日間無料トライアルからどうぞ♪

- ・ 過去に開催した各種講座の動画視聴、資料の閲覧ができます
- ・ 講座受講料が一般よりお得♪
- ・ 月額料金内で複数の講座をオンラインで受講できます
- ・ **会員のイベント(美術展、オフ会)に無料**(もしくは会員割引)で参加可能

加藤まり子の
西洋美術史講座



<http://mariko-no-heya.com/kiso2020/>

	西洋美術史基礎 全12回	ルネサンス美術とタロット	過去分無制限視聴 (聴き放題)
イベントの参加※	無料 (もしくは会員価格)	無料 (もしくは会員価格)	無料 (もしくは会員価格)
過去開催の各種講座の視聴	○	○	○
西洋美術史基礎 全12回	○	×	×
ルネサンス美術とタロット	×	○	×
月額(途中解約可能)	9,500円 (2021年6月まで)	19,000円 (2021年6月まで)	10,000円 → 1~3月 5000円 (8日間無料トライアル有)

※毎月、旬の美術展を見学しています。美術展の見学会の参加は無料です(入場券別途必要)。
1月「古代エジプト展」、2月「コンスタブル展」、3月「カラヴァッジョ展」など

58